

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900866		
法人名	有限会社エイエスサービス		
事業所名	グループホームサンホーム		
所在地	田川市大字川宮1711番地29		
自己評価作成日	令和5年11月3日	評価結果確定日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ入居者に時間割などルールを作らないようにし柔軟に対応できるように支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「人生とはその人らしく生きること」を具現化すべく、代表者は日頃からミーティングなどで理念について話している。目覚めた順に早朝でも朝食を提供し、本人の意向に添って入浴や日中の過ごし方を支援し、「帰りたい」には、「どうぞ、気を付けて」と見送ると、自ら「今日はやめておこう」となっている。食事の摂取量が少なくなった方々の日々状況を家族に説明し、看取りの意向が変わっても良い事を常々話すなど、本人や家族に寄り添った支援が展開している。玄関先での面会には「無理せん程度にしてください」と労いの言葉を受け、今年はクリスマス会後に家族会を予定している。市内診療所と非常災害協定書を交わし、他の業者と備品供給の協定など協力体制を築き、BCP策定は目前となり、地域密着型サービスとしてさらなる理念の具現化に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **2号館／グループホーム サンホーム**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が日頃から事業所の理念について話し 職員に理解を深めるように実施している	開所以来の理念である「人生とはその人らしく生きること」を玄関に大きく掲示し、日々入居者を支援している。管理者はミーティングなどで、ルールを作らず柔軟に一人一人に合わせた対応を指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として一斉清掃や日頃から近隣の道路等の清掃を行っている	自治会加入はないが、近辺との交流は継続し、長年草刈りや清掃活動を行っている。中学校の職場体験実習生の受け入れを快諾し、学校から日時や参加数などの連絡を待っているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は地域貢献として町の依頼を受け認知症の理解を深める講座を実施しているが新型コロナウイルス感染流行してからは実施していないが現在令和6年度西田川中学校の職場体験の受け入れ協力をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度は運営推進を開催し、事業内容や今後の事業所の課題などについて話し合っている	地域包括支援センター職員や地域代表、家族の参加で2か月毎に開催している。ホームの現状や課題を報告し、時には処遇改善加算について話が出るなど、率直な話し合いが行われ、議事録を玄関に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当窓口や地域包括支援センターと連携し入居状況などをつたえ協力関係を築いている	毎月担当課に居室情報を報告し、地域包括支援センターや社会福祉協議会から入居の相談を受けている。クラスター発生時は担当課に随時報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し社内研修を実施し、身体拘束について考える時間を設けて実践している	身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催し、テーマを決めて各ユニット毎に研修している。「帰りたい」には、入居者の行動を制止せず「どうぞ、気を付けて」と見送ると、自ら「今日はやめておこう」となっている。言葉による拘束も理解し、「待つて」には納得できる説明を足している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上位の身体拘束と共に高齢者虐待について年に1度は虐待について話し合う場を設けて職員同士で意識していくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は社内研修の場を設けて権利擁護について考える機会を設けている	入居時に日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明しているが、活用はない。随時活用を支援するために、資料を整備し研修を継続している。キーパーソンと連絡が取れない入居者があり、12月の運営推進会議で地域包括支援センター職員と活用について協議する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明を行い、入居契約を怒っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族はいつでも管理者や職員に気軽に意見が言えるような関係を構築するよう取り組みまた、外部へも相談できるように連絡先を掲示している	家族面会時、メールやラインで近況や買い物の報告、請求書の送付などを行っている。玄関先での面会に意見はなく、「無理せん程度にしてください」と労いの言葉を受けている。クリスマス会後の家族会には、10名近く参加予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者兼管理者は常に従業員の意見を聞き入居者にとって必要なことはできる限り反映させている	日頃よりグループラインやミーティングで意見や気づきを共有し、代表者が毎月のユニット毎のミーティングに参加している。備品の希望はその都度反映され、加湿器などが多数購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り職場環境の整備に努め賃金の見直しや有給休暇の取得しやすいように取り組んでいる		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	代表者は職員採用にあたり年齢や性別を採用基準としていない	30～70代の男女職員が、常勤やパート、夜勤専従など、夫々の状況に応じて就労し、夏休みは子供同伴で出勤する職員もいる。人間性を重視した採用で、殆どが介護福祉士の資格を取得し、認知症基礎研修の受講も支援している。入浴や調理はできる職員になど、年齢やスキルを配慮した協力体制を構築している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回は社内研修の場を設けて人権について考える時間を設けている	人権に関するパンフレットを整備し、ホーム内での研修を11月に実施し、啓発に努めている。行政主催の人権に関する講演会などの案内はあるが、参加には至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修への参加は出来る限り行うようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	田川地区グループホーム連絡協議会に加入し職員同士の交流会など行っていたが新型コロナウイルス感染症が流行してからは行う機会がなくなっている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始時は特に不安を抱えていることが多い為職員は特に注意し安心して生活できるように支援している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始前にご家族の考えや要望などを聞き協力関係の構築に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は特に入居者が不安なく安心して生活できるように細心の注意をしてサービス提供を心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす関係であるようにできる限りは入居者と職員が共同スペースで過ごせるようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者がホームで安心して過ごしていけるように家族にも情報提供をして協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	原則として、面会時間等の制限は行っておらずいつでも立ち寄れる場所としているが新型コロナウイルス感染症予防として状況によっては面会人数や場所の制限を行っている	玄関前のポーチにイスを用意した面会を継続している。時間や人数の制限はなく、家族の車で来所された車イスの知人と再会を喜ばれた方もある。所持している携帯で家族などに連絡する入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように職員が間に入ってサポートし支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもホームとの行き来があり必要な場合には協力してもらっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の意向を把握し実践しているが実現可能でない困難な意向に関しては本人より妥協ラインを模索し対応している	1日のスケジュールがなく、目覚めた順に早朝にも朝食を提供し、本人の意向に添って入浴や日中の過ごし方を支援している。食後すぐに横になりたいとの希望には、喉に詰まると辛くて涙が止まらないので、少しでもここに居ると職員は話している。	アセスメントシートに時系列で入居者の心身の変化を印字を変えて記載し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や生活環境を入居時に情報収集しサービス利用が始まっても把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身の状態など申し送りやSNSを活用し状態の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き出来るだけ意向にそえる介護計画に取り組んでいる	各ユニットの主任やケアマネージャーが把握した職員の気付きや意見、家族や本人の意向を話し合い、1番の課題を抽出し、現状に即した介護計画を作成している。個別のサービス内容をリビングのボードに掲示し、支援内容を共有している。	実践している個々の意向に沿った支援を反映した介護計画を作成し、さらなる理念の具現化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で入居者の記録を行い、各職員が出来るだけ簡単に把握できるよう申し送り、SNSなど活用している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟に対応できるように、職員の時間割を見直しサービスの多機能化に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の必要な地域資源があれば活用して頂き心身の力を発揮できるようにサポートしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が元々受けていた医療機関を受診し、訪問診療への変更が必要になった時は情報提供等支援を受けている	職員の同行で入居以前からのかかりつけ医の受診を支援しているが、協力医療機関の訪問診療を受ける入居者もいる。週1回訪問看護が健康を管理し、変化や気づきを早期受診に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は訪問看護師に日頃の状態を報告し医療機関への受診の必要性等相談出来る関係を築いている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は早期に退院できるように医療機関、家族と連携し早期退院に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけて必要に応じて、医師、看護師、管理者、家族で話し合い入居者の支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りの指針を説明し、同意書を交わしている。ここ2年間は看取りはないが、日々の暮らしの延長に看取りがあると捉え、今後も看取りを支援する予定である。食事の摂取量が少なくなった入居者が数名あり、日々の状況を家族に説明し、看取りの意向が変わっても良い事を常々話すなど、本人や家族に寄り添った支援が展開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを使用し定期的に社内研修や申し送りを行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に職員に訓練を行っている。域との協力体制に関しては行政とは連携している	今年9月に消防署の立ち合いで、通報や初期消火、避難訓練を実施している。別倉庫で備蓄を管理し、自家発電機も購入している。市内診療所と非常災害協定書を交わし、他の業者と備品供給の協定など協力体制を築き、BCP策定は目前である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者その人らしさを尊重して声掛け、介助を行い支援している	入居者の呼称は、下の名前で呼ぶ方や「○○」と呼んでと自分から言われる方もあり、自己決定となっている。使用した紙パンツを隠す入居者のプライドに配慮して、トイレの天井と居室の空間に産婦人科医師の「毎日、1回はき替えてください」と指示を掲示し、功を奏している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が出来るだけ自己決定出来る様に選択肢がある声掛けを行い支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者のペースで生活が送れるように職員の時間割を細かく決めず対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個人で化粧してる人や服装は選択できるように声掛けし支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状は入居者が準備や後片付けは行っていないが楽しく食事できるように支援している。	農家から購入した玄米を毎月精米し、旬の野菜を豊富に使った食事を提供している。献立の予定はなく、1ユニット毎にその日の材料で調理したり、新聞に記載された料理を作ると依頼されることも多く、食事を楽しめるように支援している。食事摂取量が少ない方には、栄養補助食品や高カロリー食品を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者が一日に摂取している食べ物、飲み物の量を把握し各個人に合わせて食べ物の形態、量を設定し支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内ケアの時間があり必要に応じて歯科医師に連絡し訪問診療を利用し対応している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	固定のオムツ交換の時間を設けず入居者個人の排泄パターンでの排泄介助の時間を設けて対応している	排泄が自立している入居者もあるが、昼夜を問わず車イスの方も声掛けや見守り、誘導などでトイレでの排泄を基本として支援している。夜間トイレまで行くと目が冴える方は、安眠できるように居室にポータブルトイレを設置している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように個別に最終排便日を把握し飲食物や体操など工夫し予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴可能な曜日や時間を詳細設定せず、出来るだけ声掛けし入浴の支援に努めている	毎日浴槽にお湯をはり、本人に合わせた入浴を支援している。入浴拒否はないが、週2回が多く、浴槽の跨ぎを2人体制で介助したり、同性介助の希望に応じている。広い脱衣室は暖房が入り、入浴後は各自好みのローションや処方の保湿剤塗布を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が夜間安心して入眠出来る様に日中も必要に応じて短時間の昼寝など入眠時間の把握に務め支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも入居者の処方内容を確認できるところにファイル化し服薬の支援に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が張り合いや喜びを感じられる生活を送れるように生活歴や職歴など出来るだけ把握し日常生活で生かせるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状新型コロナウイルス感染症の流行に伴い必要以上の外出は控えてもらっているが、出来る限りは実施している	外出はまだ控えているが、桜の花見は数名が参加され、精米に行くついでにドライブに出かけて気分転換をしている。家族と外出される時には、必要以上の外出は避けていただくようお願いしている。「来年の初詣には出かけられるといいね」と話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の記憶、判断、理解力をみて小遣い程度所持している入居者もいて買い物等の支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の能力に応じて携帯電話を所持している入居者もあり不定期だが手紙を貰っている入居者もいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の照明はすべてLED化し居室内はペアガラスで西日のあたる部屋は日よけの設置、トイレにもエアコンを設置している。冬場は乾燥防止の為に加湿器の設置を行い居心地よく過ごせるように支援している	周辺の里山の風景が見渡せる高台に開所し、ユニット間のポーチは面会の場となっている。明るく清潔な居間はテーブルや椅子、ソファが設置され、大形のテレビを見たり絵本を読んだり、ゆっくりと穏やかな時間が流れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が気の合う利用者同士過ごせる場所にもソファを設置支援している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は本人の能力に合わせて出来るだけ使い慣れた物を使い生活できるようにしている	ドアの前にはひらがなで記載した手作りの表札が掲示されている。荷物がクローゼットに整理整頓されて広く感じられる居室や、家族の写真や絵画、ぬいぐるみを飾りぬくもりのある居室など、その人らしい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は床には出来るだけ物は置かず、壁にも入居者が混乱しないようにカレンダーなど最小限の掲示物にしている		